



GXリーグ参画企業として  
：当社の脱炭素活動ビジョンとトランジション戦略

2023.09.19  
株式会社 梶原鉄工所

**GX** League

## 目次

- A 自社の排出量削減に向けたビジョン  
（2050,2030への絵姿）**
- B トランジション戦略**

## A 自社の排出量削減に向けたビジョン（2050,2030への絵姿）

- 当社は大正4年の創業から100年以上にわたり、地域に根差した「鉄工所」として社会に貢献してきた。
- 技術部門を擁し、自社製品として環境機器を取り扱う、2013年にISO14000シリーズ取得、など「環境」を意識した経営を行ってきたが、当社の主要顧客の多くは石炭火力発電をはじめとする「二酸化炭素排出業界」であった。
- 創業100年を超え、昨今の脱炭素の潮流の中で社業を継続していくためには当社としての**社会貢献を在り方見直す**必要が生じた。
- この為、創業100周年を記念し、2014年より太陽光発電事業への取り組みをはじめ、令和2年度末時点での**発電設備容量は10MW**を超え、再生可能エネルギー供給に貢献している。
- 脱炭素を通じた更なる社会貢献のため、現在以下について取り組み中。
  - ✓ 2020年より社内に新規事業室を立ち上げ、Zuccato Energia社（イタリア）と提携、**ORCバイナリー発電モジュールの国内取り扱い**を開始。
  - ✓ 自社のカーボンニュートラルトランジション戦略として祖業である「鉄工所」としての生産拠点であった**本社工場を2023年度移転し、屋上型太陽光発電システムを採用した**。システムを順次拡充し、完成時には**生産のための主動力である電気をすべて再生可能エネルギーで賄える**ようにする。

これらの取り組みをさらに発展させ、サプライチェーンでのCO2排出管理など脱炭素活動をさらに展開していくことにより、当社が将来進むべき道を示すビジョンとして以下を掲げている。

株式会社梶原鉄工所は

「**大気汚染防止と脱炭素活動の2つを柱とする環境関連製造業**」  
になる。

## B トランジション戦略

### 1) 全体構想

2030年：本社（製造部門）カーボンニュートラル達成。

2050年：全社（ビジネス全体）カーボンニュートラル達成。

### 2) 基準年度（2021年度）CO2排出量

#### Scope 1

1-1 灯油	10,814 ℓ	= 26.916 t-CO <sub>2</sub>
1-2 LPG	1,100 kg	= 3.300 t-CO <sub>2</sub>
合計		= 30.219 t-CO <sub>2</sub> <sup>①</sup>

#### Scope 2（電力）

2-1 本社工場	304,642 kWh <sup>②</sup>	=147.447 t-CO <sub>2</sub> <sup>③</sup>
2-2 松之本工場	108,846 kWh <sup>④</sup>	= 52.681 t-CO <sub>2</sub> <sup>⑤</sup>
合計	413,488 kWh <sup>⑥</sup>	=200.128 t-CO <sub>2</sub> <sup>⑦</sup>

総計

**230.344 t-CO<sub>2</sub><sup>⑧</sup>**

### 3) アクションプランと削減量

#### a) (2023年) **本社移転。太陽光パネル稼働** (充電器未設置)

太陽光パネル発電容量： 500 kW

推定年間太陽光発電電力： 500,000 kWh<sup>⑨</sup>

蓄電池未設置による発電電力利用効率低下検討

- 営業日 (稼働日) : 200日 (365日中)
- 営業時間 (稼働) : 8 hr (平均日照時間：12時間)

→発電利用効率： 37% (200/365 x 8/12)

蓄電池未設置利用可能発電量： 182,648 kWh<sup>⑩</sup>

#### b) **2023年度排出削減量予定** (NDC水準削減量：6.9%)

本社使用電力：304,642 kWhのうち利用可能発電量分182,648 kWhにて太陽光発電電力にて置き換え。排出係数が一定として2023年度の基準年度比削減量 = 88.402t-CO<sub>2</sub> (基準年度比38.4%削減)

#### c) **2025年度排出削減量予定** (NDC水準削減量：13.8%)

この期間において追加削減策の計画はない。従い2025年度の基準年度比削減量 = 88.402t-CO<sub>2</sub> (基準年度比38.4%削減)



d) (2025-30年) **蓄電池設置 非営業日や営業時間外の発電電力の有効利用開始。**

蓄電池の設置により非営業期間（非営業日、営業時間外）の発電電力も業務消費電力に充当する。推定年間太陽光発電電力量： 500,000 kWh<sup>⑨</sup>を本社消費電力にフル充当でき、本社での化石燃料由来電力を「ゼロ」に。

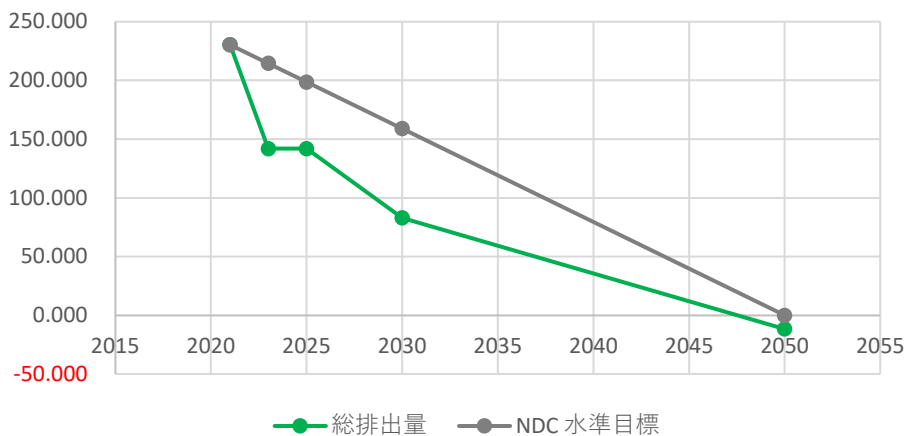
e) **2030年度排出削減量減量予定（NDC水準削減量：31.0%）**

本社使用電力：304,642 kWh全量を太陽光発電電力にて置き換え。排出係数が一定として2030年度の基準年度比削減量 = 200.128 t-CO<sub>2</sub>（基準年度比86.8%削減）

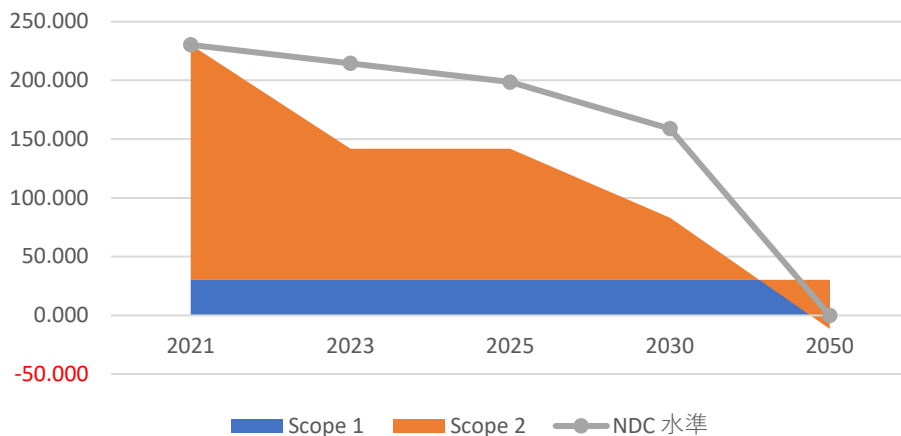
f) (2030年以降) **本社の発電電力を自己託送により松之本工場へ送電し、業務消費電力に充当する。また、必要に応じ、自社で発電した余剰電力を売電し、カーボンニュートラル→カーボンネガティブの達成を図る。**

## 株式会社梶原鉄工所 トランジション戦略に基づく排出量推移

排出量推移(t-CO2)



各Milestone内訳(t-CO2)





The logo for Kajiwara Iron Works Co., Ltd. features a stylized 'R' inside a circle, followed by the company name in a bold, sans-serif font.

**® KAJIWARA**  
IRON WORKS CO., LTD.

The GX League logo consists of the letters 'GX' in a bold, black, sans-serif font, with a bright green diagonal slash through the 'X'. To the right of 'GX' is the word 'League' in a black, serif font.

**GX** League